

石風呂 — 前野 —

「ミーン、ミーン」

「ジー、ジー」

照りつける太陽、セミの鳴き声が聞こえ、じっとしていても汗がにじみ出てくる土用。そのひどい暑さのため、たくさんの村人が倒れたそうです。

米は作っても年貢でとられ、麦、アワ、ヒエを食べてくらしていた村人達は、暑さに勝てなかったのです。

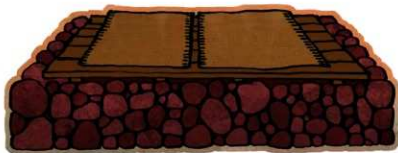
「丈夫でいたい。」

と村人達が神にも祈る気持ちで、石風呂を作ったのです。

「夏病に勝ちたい。」

そんな祈りをこめて、石を一つ一つ積み重ねていったのです。いく日もかかって積まれた石の土台に一方はたき口、他方は入浴口をつけて荒壁で仕切った。

「さあ、これをどんどん燃やすのや。」





と言って山でジン（松、杉等を切り倒した根っこ）を掘ってきて一晩中燃やし続けたのです。

石は真っ赤に焼け、その上に水で浸したモウソウ竹の太い^す實の子とむしろを敷いた。

そうして村の男衆がそろって^{はらいざわ}祓川で水ごりを取り、石風呂に入た。すると身体中汗がびっしょりふき出し、このひどい汗とともに心身の罪やけがれもぬぐい去られ、丈夫な身になったのです。この行事は、翌年も翌々年も行なわれ、夏病で倒れるということはありませんでした。

前野では、毎年旧六月十三日に行なわれていましたが、明治六年に廃止されました。現在は、玉城町宮古で、旧暦二月十日に行なわれています。



キーワード：みんわ、前野、石風呂

このお話は、昭和56年に発行された書籍『明和のみんな』（野田那智子さん編著）をもとにし、登場する人物・建物・その他の名称・読み方などは、原文をしょうしています。